



対話から生まれる



～「対話」とは？～

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践が始まり、各校で「対話」を取り入れた授業実践がなされているかと思います。それと同時に、職員室でも「対話」が盛んに行われているかと思います。私は、互いの主張を傾聴し合う中で一人ひとりが自己内省を行うことを「対話」と定義しています。学校で行われている「対話」はいかがでしょうか。

飯田事務所では「対話から生まれる」をテーマに掲げ3年目となり、一方通行の講義型の研修から、双方向・参加型の研修に切り替え、参加者との「対話」、参加者同士の「対話」が生まれるよう試みてきました。そのために、事務所では有効な研修テーマや資料、ペアリング等の工夫を行い、個々の主張を通すことに主眼をおき、正当化を論理的に説明する「議論」や、自己内省がない「会話」に陥らないように検討してきました。今後も「答えのない問いを追求し合い、自分の言葉で語り、当事者意識を磨き、自分自身に問いかけ、思考や行動について分析し、自己の変容につなげる」そんな研修会となるように努めてまいりたいと思います。

1年間、南信教育事務所飯田事務所の事業へのご協力ありがとうございました。

南信教育事務所飯田事務所長 石井克之

多様な人々が協働する社会を目指して

多様な人々が認められ、一人一人のよさが生かされる社会

「協働」とはそんな社会に生まれるしゅきにちがいない

ひとりの地域人として 子供を育てていく

コミュニティスクール推進学社連携・協働意見交換会

7/7

グループワーク、講義・意見交換「今ここから」

伊那谷 de キャリア教育運営委員

キャリア教育コーディネーター 安積順子 氏

子供が育つ地域の力、人と人とのつながりを大切に、大人も子供たちと一緒に学び続ける存在でありたいと思います。



相手の関心に 関心を寄せる

飯伊地区放課後子ども総合プラン研修会

6/8

講演とGW『共に創ろう 子どもは未来』
～安心安全の場づくりで豊かな交流を創造しよう～

日本グループワーク・トレーニング協会 上級アドバイザー
長野県レクリエーション協会 レク・コーディネーター

犬飼己紀子 氏

短い時間のアイスブレイクで信頼関係が生まれたことに感動しました。実際に体験し、楽しみながら「子供との関わり」について学びました。

子供たちと一緒に学ぼう

PTA 活動支援

- ・ P T A 学級代表者会研修会
「気軽に話せてつながれる
楽しい学級 P T A づくりのヒント」
アイスブレイク、内容、進め方等の共有
- ・ 保護者研修会（子育て講演会）
「大人も子供も笑顔になる子育てのヒント」
参加型・対話型の講演会
保育園幼稚園と小学校のつながりについて

一番大事なのは“対話”だと思いました

飯伊地区コミュニティスクールコーディネーター研修会

11/14

講演・演習「支援から協働へ」

～美麻小中学校のコミュニティ・スクール(国型)立ち上げ期からの展開～

文部科学省総合教育政策局 C S マイスター

美麻小中学校地域学校協働コーディネーター

前川浩一 氏

子供たちの主体的な学びをつくるためのヒント
がたくさんあり、「支援」から「協働」への具体的な
手立てを学びました。



ちがいはあって当たり前

学校社会人権連絡協議会

5/30

10/23

・ 「性の多様性について」 ダイバーシティ信州会長 小泉 涼 氏

・ 「イランカラブテ」 公益財団法人アイヌ民族文化財団アドバイザー 関根摩耶 氏

相手に寄り添うために「無知を知る」ことや、「何が大事か、人によってちがう」というお話から、すべての人の人権が尊重される共生社会をつくることの大切な視点について改めて確認でき、様々な人権課題に関心をもつ必要性を感じました。

すべての人が スポーツに親しむ 地域・学校に

多様な人々が集い、それぞれの能力を発揮して競い合う。互いの可能性を認め合いながら…

生涯
スポーツ
振興

子供たちが楽しめて 安心できる環境づくりの大切さ

第1回スポーツ活動指導者講習会

7/8

安心できる人間関係・チーム・学級づくり

～「体育」の授業を手がかりに

私たちの意識改革をしてみませんか～

東御市立田中小学校 教頭 蓑輪良江 氏

みんなが励ましてくれたり、盛り上げてくれたりする雰囲気の中では、のびのびと動けることを実感しました。

今までのやり方だと子供たち、少し大変だったかな…と反省です。

テーピングには 保護する役割も

第2回スポーツ活動指導者講習会

9/3

「専門家から学ぶ テーピングの基礎」

(公社)長野県柔道整復師会 南信支部のみなさん



なんとなくテーピングしてしまっていたけど、身体の部位によってテーピングの仕方があると知り、これからは生かしていこうと思いました。(中学生)

「対話」する中で深まっていく

与えられた答えではない。仲間や講師と「対話」することを通して自分で答えに迫る。
だから自分のものになる。

自分だけじゃない！ 一人じゃない！

教師力ちょっとアップ研修会 年5回実施、主に臨時的任用職員が対象のべ99名参加

どなたでも参加できる「対話」のある研修会です。主体的に学んだ参加者からさまざまな感想をいただきました。

- ・生徒に授業で「対話」を求めている中、こうして先生方と対話することで、自分が成長していることを実感しました。今回の研修にこそ、対話を生み出す授業の要素がたくさん詰め込まれていると感じました。
- ・他の参加者と話し合いをしながら、皆で問題を解決するという形だったのが、子供主体の授業を受けている側の気持ちになれて有意義だと感じました。



気軽に話し、授業を見合う雰囲気をつくりたい

研究主任研修会 年3回実施のべ168名参加

～校内研究のさらなる充実に向けて～

- ・校内研究グループの組み方や、研究目標の在り方など、普段なかなか悩みを相談しにくい内容も気軽に討論できたのでよかったです。特に、同じくらいの規模の学校の先生方と相談できたことが非常に効果的で、学校の体制に合った、より実践できそうな内容となりました。
- ・研究主任という同じ立場の先生と悩みを相談し合うことができ、とても有意義な時間でした。

子供たちの願いに 寄り添えられるように

初任者研修会 下伊那地区51名

グループ内の対話を通して、最も多く出てきた「子供の声から」という言葉。その大切さを改めて感じました。目の前の子供たちの願いに寄り添えられるよう、授業中の姿や振り返りを大切にしたいです。

あせらず、とことん寄り添い、見守り、話を聞くことを大切にしたい

選択肢を与え、子どもの持つ力を信じて見守り、あきらめずに関わり待つこと。

不登校支援を考える研修会

8/1

【テーマ】

「子供の自立支援に向けて大切にしたいこと」

【シンポジスト】

不登校の経験をもつ学生	木下 亮氏
学生の母親	木下喜久美氏
いじめ不登校相談員	小澤 徳夫氏
スクールソーシャルワーカー	矢澤 朗子氏

木下さんは、「99%の支援をしても、残り1%の努力をするのは本人」「人と離れることで、人と関わりたい気持ちになり、コミュニケーション力がアップした」と語られました。不登校を経験された木下さんならではのお話は、対象児童生徒に関わる参会者にとって大変貴重で参考になる内容でした。

- ・今回シンポジウムで何度も出てきた「ひとりひとりちがう」という言葉は、特別支援の視点と同じですが、私も含め先生方はなかなか個に応じた支援方法の引き出しをたくさん持っていませんし、背景が多様すぎる現状もあります。だからこそ、チームで対応することが大切だなあと感じました。



子供の自立を目指す 「ほっこり相談会」

10/31

11/2

個別高校進学相談会 2日間で153の進学相談がありました。

- ・子供が自分から話をしていて、少し安心しました。(保護者)
- ・2年生で参加できてよかったです。(保護者)
- ・丁寧に教えてくれ、分かりやすかったです。(生徒)

教科と連携した 食育の授業づくり 「コミュニケーションが大切」

栄養教諭・学校栄養職員授業づくり研修会

6/16

今年度で16回目となる研修会。ICTを活用した授業実践や、学級担任や教科担任と連携した授業づくりなどについて、実践事例をもとに学び合いました。

- ・「食に関する指導の全体計画」を、教科担任と一緒に見直すことから始めたいと思いました。
- ・教科での授業実践発表を共有して、誰もが実践できる方向に進めていきたいです。



週に1回でもいいので、 “報連相”ができるといいな

教育支援員スキルアップ研修会

7/27

事例を通して、具体的な支援を考えました。「子供に関する情報を共有したい」と、切実な願いが各グループから聞こえてきました。



- ・担任や管理職ともっと情報を共有したい。
- ・支援員同士で情報共有の時間を位置づけてほしい。
- ・短時間でいいので定期的に支援会議に参加させてほしい。

飯伊地区ジュニア期の 文化芸術・スポーツ活動検討委員会

令和元年度から話し合いを重ねてきた検討委員会の具体的な取組「エンジョイスクエア」が11、12月に実施されました。46種目にのべ580名の小中学生が参加し、自分のやりたい種目をエンジョイしました。



「赤門スクール」 飯田下伊那の学び

講師から語られる 魅力的で奥深い学びの世界
知れば知るほどおもしろくなる

南アルプスの博物学 ～大正時代から現代へ～

【第1回】 四方 圭一郎 氏
(飯田市美術博物館学芸員)

7/13



棕鳩十 戦後の活躍 ～「讀切特撰集」の時代～

【第2回】 菅沼 利光 氏
(前棕鳩十記念館館長)

8/25



りんご並木と田中芳男 ～「希望」は りんごの姿をしている～

【第3回】 青木 隆幸 氏
(飯田市美術博物館専門研究員)

10/6



飯田下伊那の 児童文学作家たち「現代編」 ～宮下和男との出会いによって～

【第4回】 北沢 彰利 氏
(前黒姫童話館館長)

12/8



再発見・南信州 民俗芸能の価値をさぐる

【特別編】 小川 直之 氏
(國學院大學名誉教授)
(柳田國男記念伊那民族学研究所所長)

1/21

